

雲外蒼天

No. 18

ケアレスミス撲滅大作戦 (その3)

前回の続きです。

5. プラスマイナスと、数値計算は別々にする

これはどんな場合かというと、例えば $(-2)^3 \times (-3)^2$ を計算するような場合です。多くの人は数字と符号を一緒に計算して、 $(-8) \times 9 = -72$ として事なきを得るのですが、たまにマイナスを忘れる人がいます。

「こんな初歩的な間違いはしないよ」という人でも、 $(-5)^5 \times (-4)^3 \div (-25)^2 \times (-1)^7$ などとなると、数字が大きくなる分そちらに気が取られて、マイナスを忘れてしまうということがよくあります。こんな時には「プラスマイナスと、数値計算は別々にする」というのが有効です。まず、全体がプラスかマイナスになるかだけを考え、マイナスになれば、最初に答えの欄に「-」を書きます。その後数字の計算だけをして答えを出すのです。こういった方法が間違えないコツだと思います。

6. 間違いやすいアルファベットは筆記体で書く(例えば、b, q, l, など) とか、ひげを付ける(例えば、z など)

この間違いもよく見かけます。これは採点の時に間違えられるというよりも(採点者は正解を持っていますから、筆記体でもブロック体でもわかる)、受験生の方が答案を作成する途中で間違えるケースが多いのです。私は何度も見かけましたが、アルファベットの q を途中から数字の 9 として計算している例や、アルファベットの b を途中から数字の 6 として計算している例などたくさんあります。そのためにも、特定の文字は普段から筆記体で書くという習慣を付けていれば、間違いは減らせると思います。作家の万城目学さんはそれまで間違えたことがなかった「b」と「6」を大学受験で間違えて、4点たりずに不合格となり、1年を棒に振ったとエッセイの中で書いています。

7. 練習の時には、ムダを嫌がらない(練習中はわからなかったらすぐに模範解答を見て、それを憶えるのではなく、自分で試行錯誤を繰り返してみる)

生徒はすぐにうまいやり方や正解を求めすぎることです。うまく解けなくていわゆる泥臭く解いて正解までたどり着いても、1点でも2点でも点を取りにいくという姿勢が合格に繋がるのです。だから、とにかく答えを出すことがいるのです。

自分でいろいろ試行錯誤をする。答えまでたどり着かないかもしれないけど、今の自分の力でさまざまな角度から考えてみる。この姿勢が大切なのです。普段からそういう「ムダ」(試行錯誤)をやっておけば、本番で間違いが少なくなるのも当然です。なぜなら、練習でやったことがあれば、間違いに気がつきやすくなるからです。

